

らったりしていたのですが、バイトが決まったので、10年落ちの安い車を買いました。その日は会社帰りに、なかなか予約の取れない人気レストランで初めて「GoGoしてウキウキして家に戻りました。パーキングに着くとちょうど彼氏も戻ってきました。すると車から降りてきた彼が「あれ？友達は？」って。「は？」と言うと「ずっと後ろに着いて走ってたけど、助手席に女の子が乗っているのが見えたから、友達連れてきたのかと思った」って。いやいや、連れてきてないって。「見間違いじゃないの？」と言うと、「肩くらいまでの髪の毛の子が運転席との間から頭を出して俺の方振り返った影が見えた。笑ってるみたいにくの辺りに手を持っていく影も見えた」って言うんです！怖すぎです。中古車に憑いていたのか人気レストランから連れてきたのかわかりませんが、車を買って替える余裕もないので、それ以来、取り敢えず車に盛り塩をしたり魔除けアイテムを置いたりしています。【Kさん】

ここからは魔女ともえさんの実体験です。

☆以前フライトスクールで訓練していたときの話です。授業を受けていると、教官の知人がいきなり教室に入って来て、「これ見てくださいよ、やっと手に入れた俺の宝物！」と言って、私達にあるものを見せてきました。それはなんと零戦ゼロの操縦桿でした。私としては、「この操縦桿を最期まで握っていた日本兵は、敵国であったアメリカ人が『宝物！』と言ってニコニコしている光景を、今どんな気持ちで見ているんだろう…」と何とも言えない気持ちになりました。そしてその日家に帰ると、どうも何かが悪い感じが…。リビングの電気スタンドの傘がすっ飛び、冷蔵庫のドアが勝手に開いて中の物がキッチンに放り投げられる…。という怪奇現象が起きました。

☆学校のツアーでパリに行ったときのこと。夜中に部屋に（生きた人間ではない）誰かが入って来て歩き回っていたのですが、その気配が消えた場所にあった友達のスーツケースの鍵が壊れて開かなくなったので、皆でお祓いをしていると、私は急にフルトランス状態になり、そのホテルのある場所がかつて父親を母親とその愛人に殺されたという娘の霊が私に降りてきました。そのとき、除霊の為に友人がロザリオを窓から外に投げてくださいました。すると、翌日、ホテル前で腰の曲がった白髪の老婆がその友人のところまっすぐに歩いてきて、「これ落としましたよ」、とそのロザリオを差し出してきたのです。昨晚それを投げた窓は地上からは絶対に見えていないはずなのに…。と、不思議に思っただけがロザリオに視線を向けたほんの数秒後、どこも隠れるところも、路地も無いのに、その老婆は忽然と姿を消し、皆でゾツとなりました。

☆「あれ？何故ここに??」。道にも地理にも明るい私なのに、何故かその日は道に迷ってしまい、どうしても目的地に着きません。そうこうする内に、見覚えのある場所に行き着いたのですが、そこはなんと…かつて某雑誌の心霊スポット探索の取材で訪れた幽霊が出るという噂の廃病院でした。そんなこと絶対に有り得ないのに…。だって全く違うエリアにいたんだから…。そんなところ走ってなかったんだから…。

いかがでしたか？ 今後も引き続き怖い話や不思議な体験談募集中なのでどんどん送ってください。本誌に掲載できない場合は、ラベストのYouTubeチャンネルなどでご紹介していく予定です。さて、そろそろ旧盆ですね。今年は日本に行けそうもありませんが、ご先祖様に手を合わせましょう。

